

奈良県感染症情報

令和4年 第41週(10月10日～10月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 今冬のインフルエンザ対策について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.06	(1.56) ↑	→	↗	↑
2	手足口病	0.79	(1.65) ↓	→	↓	↓
3	RSウイルス感染症	0.76	(1.32) ↓	→	↓	↓
4	突発性発しん	0.38	(0.29) ↑	↑	↗	→
5	ヘルパンギーナ	0.15	(0.35) ↓	→	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第41週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は、2225名と第40週の1989名より増加しています。奈良県では、感染防止と社会・経済活動を両立させ、日常生活の維持を目指していきたいと考えています。リスクの低い状況では多少リラクセスするようにし、できるだけ日常生活を維持するようにならねばならず、流行の再拡大を防ぐため、マスクの着用、確実な換気、共有物の消毒、混雑の回避や、手洗いまたはアルコールによる手指消毒など、感染経路の遮断による基本的な感染防止策の徹底を改めてお願いいたします。

◆ 今冬のインフルエンザ対策について ◆

インフルエンザは、新型コロナウイルス流行開始以降、日本国内の報告数が激減していましたが、過去二年間インフルエンザの流行が見られなかったオーストラリアでは、令和4年5月から6月にかけて報告数が急増しました。

今後、日本でも同様に流行する可能性がありますので、インフルエンザワクチンの接種を希望される方は、お早めに接種をお願いいたします。

- インフルエンザワクチンは重症化予防などの効果がありますが、発病を必ず防ぐわけではありません。接種時の体調などによって副反応が生じる場合があります。かかりつけ医等と相談しつつ、接種を検討いただくようお願いいたします。
- 定期接種の開始日は自治体によって異なることがありますので、お住まいの市町村にてご確認ください。

詳しくは
厚生労働省 HP: インフルエンザ(総合ページ)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_inkyu/kenkou/kekaku/kensenshou/influenza/in.lex.html
首相官邸 HP: インフルエンザ(季節性)対策
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansenshou/influenza.html>

奈良県感染症情報

令和4年 第42週(10月17日～10月23日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	手足口病	1.29	(0.79) →	→	↗	↓
2	感染性胃腸炎	1.26	(2.06) ↓	→	↓	→
3	RSウイルス感染症	0.53	(0.76) ↓	↓	↓	↓
4	突発性発しん	0.26	(0.38) →	↗	↑	→
5	ヘルパンギーナ	0.21	(0.15) →	→	↓	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第42週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は2226名と第41週の2225名から減少せず、高い水準で推移しています。奈良県では、感染防止と社会・経済活動を両立させ、日常生活の維持を目指していきたいと考えています。

県民のみならず、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

手足口病の報告数が増加しており、特に奈良市保健所管内からの報告数が多くなっています。手足口病はコサクウィルスなどのエンテロウイルスが原因の、口の中や手、足などの水ぶくれ(水疱性の発疹)を主症状とする感染症です。予防接種がなく、予防法は手洗いをしっかりと行うことです。流水、石けんによる手洗いをしっかりと行い、タオルやおもちゃの共用を避けるようにしましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北都地区(田中小児科医院)

手足口病が流行している。初発症状は発熱で、皮膚症状が無い症例が多い。
感染性胃腸炎が少数例ある。コロナ検査の実施件数は少なくなっている。インフルエンザ陽性が1例あった。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19陽性例は減少したが10代にまだ見られる。経過は軽症。乳児の咳嗽例が増加、経過が重症・遷延する例はなかった。
感染性腸炎は減少。インフルエンザはまだ多い。

南都地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19 感染症の流行は継続している。小児は比較的軽症で後遺症も少ない。
普通感冒が増加するうち、発熱・強い呼吸器症状遷延例ではトメタニューモウイルス陽性が多々みられる。
ノロウイルス等の胃腸炎は少ない。
インフルエンザの流行ははじまっていない。



出典: マスクの着用について(厚生労働省 HP)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansenshou/saku_00001.html

奈良県感染症情報

令和4年 第43週(10月24日～10月30日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

今週の概要

- 新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えましょう

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.44	(1.26)	→	→	↑↑
2	手足口病	1.15	(1.29)	→	↑	↑↑
3	RSウイルス感染症	0.56	(0.53)	→	↓	↓
4	咽頭結膜熱	0.29	(0.03)	↑↑	↑↑	→
5	突発性発疹	0.26	(0.26)	→	↑	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第43週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は2698名と第42週の2226名より増加しています。奈良県では、感染防止と社会・経済活動を両立させ、日常生活の維持を目指していきたいと考えています。流行の再拡大を防ぐため、マスクの着用、確実な換気、共有物の消毒、混雑の回避や、手洗いはアルコールによる手指消毒など、感染経路の遮断による基本的な感染防止策の徹底を改めてお願いいたします。発熱、倦怠感など少しでも体調が悪ければ外出を控えましょう。

◆ 新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えましょう ◆

今年の冬は、新型コロナウイルス感染症について、今年の夏を上回る感染拡大が生じる可能性があることに加え、季節性インフルエンザも流行し、より多数の発熱患者が同時発生する可能性があります。

- ◎ 発熱外来にかりつらくなる場合に備えましょう
- 新型コロナウイルスの早期接種をお願いします
- 65歳以上の方等の定期接種対象者で、インフルエンザワクチンの接種を希望される方は早期の接種をお願いします
- 発熱等体調不良時に備えて、新型コロナウイルス抗原定性検査キットと解熱鎮痛剤をあらかじめ準備しておきましょう
- ◎ 感染拡大時の発熱など体調不良時の対応について
- 重症化リスクの高い方(高齢者、基礎疾患を有する方、妊婦)は速やかに発熱外来を受診してください。小学生以下の子どもは、かかりつけ医をはじめ地域の小児科などに相談ください。
- 重症化リスクの高い方は、ご自身で新型コロナウイルス抗原定性検査キットを用いて検査し、陽性の場合、健康アローアップセンターに連絡・登録をお願いします。

詳しくは、厚生労働省HPをご覧ください。
「新型コロナウイルス・季節性インフルエンザの同時流行に備えよう」
https://www.nhlw.go.jp/stf/seisakunitsite/bunya/kansenshoku_00003.html



奈良県感染症情報

令和4年 第44週(10月31日～11月6日)
奈良県感染症情報センター(奈良保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0741-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 10月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	1.53	(1.44)	→	→	→
2	手足口病	1.03	(1.15)	→	↑	→
3	RSウイルス感染症	0.50	(0.56)	→	↓	↓
4	ヘルパンギーナ	0.24	(0.06)	↑	↓	→
5	突発性発疹	0.21	(0.26)	→	↓	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第44週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は3225名と第43週の2698名より増加しています。奈良県では、感染防止と社会・経済活動を両立させ、日常生活の維持を目指していきたいと考えています。県民のみならず、基本的な感染防止策の徹底を改めてお願いいたします。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの病原体による感染症で、冬期にはノロウイルスが流行します。患者発生は、例年、12月の中旬頃にピークとなる傾向があるため、注意が必要です。特に、トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水による手洗いを徹底しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北都地区(田中小児科医院)

手足口病は減少している。hMPV気管支炎例はあったが、RS感染例はなかった。サルモネラ腸炎例があった。A型インフルエンザが複数例あった。
コロナ検査の陽性となる例が増加傾向にある。幸い多くの乳幼児が軽症であった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19陽性が1例で徐々に増加、急増という程ではない。成人へ波及し家族内感染も見られる。症状は軽症経過の様子。インフルエンザ陽性例はまだなかった。hMPV、RS呼吸器感染もやや減少傾向。
手足口病は減少。感染性腸炎も減少。

南都地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19感染者が増加してきている。併せて熱、咳の呼吸器患者も増加。鑑別は検査がよりなっている。
インフルエンザの小児での流行は少ないが、成人では散見されている。
胃腸炎や手足口病が散発しているが、流行には至っていない。



奈良県感染症情報

令和4年 第45週(11月7日～11月13日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 12月1日は「世界エイズデー」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	感染性胃腸炎	1.85	(1.53)	→	→	→
2	手足口病	1.29	(1.03)	→	↗	↗
3	RSウイルス感染症	0.32	(0.50)	↘	↘	→
3	水痘	0.32	(0)	↗	↗	↘
5	インフルエンザ	0.09	(0.04)	↗	↗	↘

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第45週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は3509名と5週連続で増加しており、全国的にも増加傾向にあります。また、保健研究センターのゲノム解析の結果、オミクロン株の一種であるBQ.1.1が県内で初めて検出されました。県民のみならず、人と人との距離の確保、「マスクの着用」、「手洗い」やアルコールによる手指衛生、「換気」など、基本的な感染予防対策の徹底を改めてお願いいたします。新型コロナウイルスの早期の接種もご検討ください。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

インフルエンザの報告数が増加しています。昨シーズンは、流行がなかったインフルエンザですが、いったん流行が始まると、毎期間に多くの人へ感染が広がります。基本的な感染予防対策や適度な湿度の保持、十分な栄養とバランスのとれた栄養摂取も大切です。

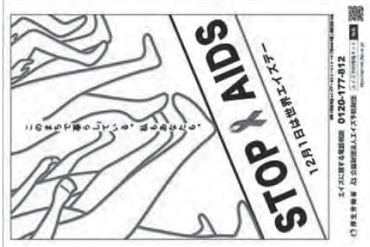


「このまちで暮らしている。私もあなたも。12月1日は世界エイズデー」

治療法の進歩によりHIV陽性者の予後が改善された結果、HIV陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また、治療を継続して体中のウイルス量が減少すれば、HIVに感染している人も他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、孤立・孤独が他人事ではなくなってきたいま、ひとりでも多くの人がHIV/エイズのことを自分事として捉え、HIV/エイズに関する検査や治療、支援などの知識を身につける契機とし、正しい知識の普及を通じて、HIV検査の受検促進や差別・偏見の解消等を図ることを目的として、12月1日を中心として、世界各国でエイズに関する啓発活動を実施しています。

厚生労働省(12月1日は「世界エイズデー」)
<https://www.hiv.go.jp/bunya/kenkou/eizu/index.html>
AIDS-Net エイズ予防情報ネット
<https://aids-net.jp/ainp/index.html>



奈良県感染症情報

令和4年 第46週(11月14日～11月20日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減			
1	感染性胃腸炎	1.53	(1.85)	→	→	↘
2	手足口病	0.50	(1.29)	↘	↘	↗
3	インフルエンザ	0.22	(0.09)	↗	↗	→
4	突発性発疹	0.15	(0.06)	↘	↘	→
5	RSウイルス感染症	0.12	(0.32)	↘	↘	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第46週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は4681名と第45週の3509名より増加しています。感染リスクの高い行動は控え、「マスクの着用」や「手洗い」、「3密(密接・密集・密閉)回避」、「換気」など基本的な感染対策を徹底しましょう。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が増加しています。今年の冬は、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時に流行する可能性があります。新型コロナウイルスとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能ですので、感染が拡大する前の接種をご検討ください。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(田中小児科医院)】

hMPV 感染症が保育園で続いている。検査キットが不足の為、確定診断できていない。
インフルエンザ、手足口病はなかった。コロナの患者は増えてきている。

【中部地区(岡本内科こどもクリニック)】

発熱、感冒症状が増加。COVID-19 陽性も増加してきた。
家族内感染では全員に波及している例もあった。
hMPV 様の例も増加、保育園で流行。
感染性腸炎は減少。インフルエンザはなかった。

【南部地区(奈良県総合医療センター小児科)】

COVID-19 陽性者が増加している。
普通感冒も増加、遷延患者にはヒトメタニューモウイルス、ヒトライノウイルス陽性者も認められ、A型インフルエンザの効りもみられた。
ノロウイルス等胃腸炎の流行は少ない。一旦落ち着いていた手足口病が増加、咽頭症状が強い特徴がある。



かしく治して、明日になく
～抗菌薬を上手に使うことでAMR対策～
<https://amr.nsan.go.jp/information/campaign2022.html>

奈良県感染症情報

令和4年 第47週(11月21日～11月27日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- オミクロン株対応ワクチンの接種について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	1.65	(1.53) ↑	→	↑	↑
2	手足口病	0.76	(0.50) ↓	→	→	↑
3	RSウイルス感染症	0.44	(0.12) →	→	↑↑	→
4	突発性発しん	0.32	(0.15) ↑	↑	↑	→
5	水痘	0.15	(0.09) ↑	↑↑	→	↓

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第47週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は5612名と第46週の4681名より増加しています。流行の再拡大を防ぐため、寒い季節ですが、特に換気を心がけましょう!
 ・時間を決めて定期的な2方向の窓やドアを開けて換気を行います
 ・サーキュレーター等は、開けた窓やドアに向けて一方方向で動作させましょう
 ・換気扇がある場合、換気扇で排気し、反対側から外気を取り入れましょう

◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの報告は例年に比べると低い水準ですが、昨年や一昨年と比較すると増加しています。県内でも今シーズン初のインフルエンザ集団感染が確認され、注意が必要です。

◆オミクロン株対応ワクチンの接種について◆

令和4年(2022年)9月20日から開始された、オミクロン株対応ワクチンの接種対象や接種を受ける方法など、新型コロナウイルス接種の情報をお届けします。昨年や一昨年にも未だ感染が拡大し、今年も現在、感染が拡大中ですので、高齢の方のみだけでなく、若い方にもワクチン接種をおすすめします。

◎接種が受けられる時期

- 接種を行う期間は、令和4年9月20日から令和5年(2023年)3月31日までです(この期間中に一回のみ)。

◎接種の対象 以下の両方を満たしている方

- 12歳以上の方で、少なくとも初回接種(1回目・2回目)が完了している方。
 - 前回の接種から、3ヶ月以上が経過した方
- ※オミクロン株対応ワクチンをアレギー等により接種できない方は、代わりに従来のワクチンの武田ワクチン(ノバックス)の接種が可能です。(前回接種から6ヶ月以上経過している必要があります。)
- なお、接種状況が市町村ごとに異なっていますので、予約・接種場所等につきましては、お住まいの市町村からのお知らせをご確認ください。

また、オミクロン株対応ワクチンの詳細については、県HPもしくは、厚生労働省HPをご覧ください。

県HP <https://www.pref.nara.jp/59669.htm>
 厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuunits/aunya/sochi/kenkou/syokan/2022.html>

奈良県感染症情報

令和4年 第48週(11月28日～12月4日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	2.12	(1.65) ↑	↑	↑	→
2	手足口病	0.56	(0.76) ↓	→	→	↓
3	RSウイルス感染症	0.41	(0.44) →	→	↑	→
4	ヘルパンギーナ	0.26	(0.03) ↑↑	↑	↓	↑↑
5	咽頭結膜熱	0.15	(0.09) ↑	↑	→	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの増減 ↑↑急増、↑増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第48週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は6858名と第47週の5612名より増加し、8週連続の増加となっています。発熱、倦怠感など少しでも体調が悪ければ外出を控えましょう。基本的な感染防止策(マスク、換気、消毒、距離)を徹底し、ふだん一緒に生活していない人が集う環境でのマスクを外しての大声での会話や長時間の同席など、3つの感染経路(エアロゾル、飛沫、接触)による感染リスクが高まるような状況では特に注意しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19の陽性率が上昇している。特に、学童の乳幼児ではコロナ以外で、高熱と咳が遷延する幼児が見られる。ウイルス感染症と思われるが確定診断ができていない。インフルエンザは無かった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19 陽性者が増加、小学生を中心に家族内感染も見られる。

症状は短期間の発熱で重症経過はない様子。

乳児でコロナ以外と思われるHMP様の頻回の咳嗽の例がみられる。

感染性腸炎は減少したが少しずつ続いてみられる。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19の流行は続いている。1日目は高熱で、熱性けいれん併発例もみられる。

ヘルパンギーナが散見され、一部保育所では流行している。また、高熱・咳嗽の遷延例ではパラインフルエンザ3型が数例検出された。熱は5〜7日続いている。インフルエンザは増加していない。



奈良県感染症情報

令和4年 第49週(12月5日～12月11日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- ノロウイルスに注意
- 11月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬物毒性(歯感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.47	↗	↗	↗	↘
2	手足口病	0.68	→	→	↘	↗
3	突発性発しん	0.29	↗	↗	↗	→
4	A群溶連菌咽頭炎	0.24	↗	↗	↗	→
5	インフルエンザ	0.18	↗	→	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第49週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は8618名と第48週の6858名より増加しています。流行の拡大を防ぐため基本的な感染防止策を継続しましょう。しゃべる時はマスクをずらさない、外で近距離での飲食は顔が対面にならないようにする等、リスクの高い場所では特に注意しましょう。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

感染性胃腸炎の定点あたり(低)状態が推移していますが、例年ではこれから流行する季節に入ります。過去10年平均でも冬期が最も多い季節となっていますので、注意しましょう。また、インフルエンザの報告も見られますので、注意が必要です。

◆ ノロウイルスに注意 ◆

食中毒は夏だけではなく、冬にも多発しています。ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は、一年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。

ノロウイルスは手指や食料などを介して、経口で感染し、ヒトの腸管で増殖し、おう吐、下痢、腹痛などを起こします。健康な方は感染症で回復しますが、子どもやお年寄りなどでは重症化したり、吐ぶつを誤って気道に詰らせて死亡することがあります。

ノロウイルスについてはワクチンがなく、また、治療は輸液などの対症療法に限られます。従って、皆様の周りの方々と一緒に、次の予防対策を徹底しましょう。

- ◎ 患者のふん便や吐ぶつには大量のウイルスが排出されるので、
 (1) 食事の前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。
 (2) 下痢やおう吐等の症状がある方は、食品を直接取り扱う作業をしないようにしましょう。
 (3) 胃腸炎患者に接する方は、患者のふん便や吐ぶつを適切に処理し、感染を避けないようにしましょう。

詳しくは、厚生労働省 HP「ノロウイルスに関する Q&A」をご覧ください。
 出典: https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/00100_0061.pdf
 ポスター: <https://www.mhlw.go.jp/content/000838751.pdf>

奈良県感染症情報

令和4年 第50週(12月12日～12月18日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:074-417-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	増減(前週)			
1	感染性胃腸炎	2.68	↗	↗	↗	→
2	手足口病	1.35	↗	↗	↗	↘
3	A群溶連菌咽頭炎	0.29	↗	↗	↗	→
3	水痘	0.29	↗	↗	↗	→
5	インフルエンザ	0.24	↗	↗	↗	↘

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↗**増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆ 県内概況(新型コロナウイルス関係) ◆

第50週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は10225名と第49週の8618名より増加し、10週連続の増加となっています。感染リスクが高まる場面では特に注意して行動しましょう。

◆ 県内概況(その他の感染症) ◆

手足口病は夏期に流行が見られる疾患ですが、今週は南部以外から報告があり、増加しました。水痘については定点報告が増加し、また入院例の報告もありました。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(田中小児科医院)

保育園で手足口病が再流行している。今回は、初期から手足に水疱を認める症例が多い。学童のコロナ感染者が増加している。インフルエンザはなかった。
 保育園で hMPV 様の発熱患児が多く出ているが、確定診断に至っていない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

小児コロナ陽性者が急増、症状は短期の高熱程度であるが感染力は強い様子が家族内への波及が多い。
 感染性腸炎も流行中。手足口病も少しずつ持続。インフルエンザはまだなかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19の流行が続いている。併せてパラインフルエンザ1型、3型やヒトライノウイルス、RSウイルスもみられている。
 ヒトメタニューモウイルスは減少。インフルエンザはまだ流行がはじまっていない。
 胃腸炎も散見されるが、呼吸器感染症に伴発していることが多い。ヘルパンギーナや手足口病の小流行も続いている。



出典: 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策 https://corona.go.jp/proposal/pdf/ascones_poster_20201214.pdf

次回週報(第51週)は、令和5年1月6日(金)に発行いたします。

奈良県感染症情報

令和4年 第51週(12月19日～12月25日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:40744-47-3183

今週の概要

- 今冬のインフルエンザ総合対策について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

順位	疾患名	奈良県		北部	中部	南部
		定点当たり	(前週) 増減			
1	感染性胃腸炎	3.03	↗ (2.68)	↗	↗	↗↗
2	手足口病	0.97	↗ (1.35)	↗	↗	↘
3	インフルエンザ	0.67	↗ (0.24)	↗↗	↗↗	↗↗
4	咽頭結核熱	0.26	↗ (0.21)	↗	↗↗	→
5	A群溶連菌咽頭炎	0.24	↗ (0.29)	↘	↗↗	→

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況(新型コロナウイルス関係)◆

第51週の新型コロナウイルス新規感染者報告数は11892名と、第50週の10225名より増加しています。基本自衛と感染予防対策を徹底することに加え、早期にオミクロン株対応ワクチンの接種を受けることなど、感染防止に向けた行動をお願いします。

◆県内概況(その他の感染症)◆

インフルエンザの報告が増加しており、特に郡山保健所管内で多く報告されています。なお、今シーズンに保健研究センターで実施した検査では、1検体からA/B(香港型)を検出しました。インフルエンザは、小児では急性脳症、高齢の方や免疫力の低下している方では重症化することがあり注意が必要です。こまめな手洗い、咳エチケット、規則正しい生活をこころがけ、感染予防に努めましょう。

◆今冬のインフルエンザ総合対策について◆

回全体で見ると、3年ぶりにインフルエンザが流行シーズンに入ったと考えられます。新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に注意が必要です。

【基本自衛感染対策】

日頃から体温や健康状態のセルフチェックを行いましょう。
適切なマスクの着脱、手指消毒、換気などの基本的な感染対策を徹底しましょう。

【予防接種】

インフルエンザワクチンの予防接種には、発症のある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性が高い方には効果が高いと考えられます。
新型コロナウイルスの接種と合わせて接種をご検討ください。

【事前準備】

発熱などの体調不良時に備えて、検査キット※や、解熱鎮痛薬を早めに購入しておきましょう。

※新型コロナウイルス抗原定性検査キット又は新型コロナウイルス・インフルエンザ同時検査キット

参考: 令和4年度 今冬のインフルエンザ総合対策について(厚生労働省HP) <https://www.mhlw.go.jp/stf/index2022.html>

出典: 厚生労働省公式ポータル(厚生労働省HP) <https://www.mhlw.go.jp/huryo/kenkou/kekkaku-kenkanshou01/kekkaku.html>

【次回週報(52週・1週合併)は、令和5年1月13日(金)に発行いたします。】

